

CIR Insights 12

[東北大学生・教職員のための教育データレポート]

2020年冬号 オンライン授業の授業評価・成績評価

学生による授業評価と教員による成績評価は、いずれも大学教育の質の一面を表す重要なデータであり、教育改善のためには定期的な整理・分析が欠かせません。今回のInsightsでは、オンライン授業化の影響を考察するために、2019年度と2020年度（ともに第1学期）の結果を比較してみました。下欄にまとめた授業評価の結果からは、どの科目区分でも授業外学修が増加した一方、学修成果の認識や総合評価は外国語科目で微減したのを除き、大きな変化はなかったことがわかります。他方で、右欄の成績評価結果を確認すると、全体として若干の向上が見られる中、ここでも外国語科目のみが他の科目とは異なる傾向を示しています。

CIRとは？

教育評価分析センターのこと。
東北大学における教育・学習活動の体系的なデータ収集・分析を行い、本学の教育マネジメントを支援する組織です。

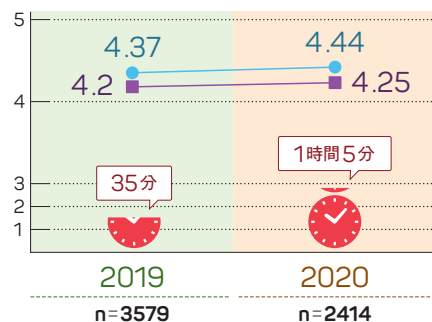
東北大学
高度教養教育・学生支援機構
教育評価分析センター

〒980-8576 仙台市青葉区川内41
Tel: 022-795-4931
Fax: 022-795-4749
E-mail: cir@ihe.tohoku.ac.jp
http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp

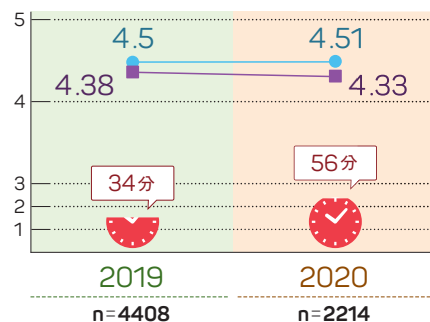
2019・20年度 1 学期の授業評価の比較

● 学修成果
■ 総合評価
● 学習時間

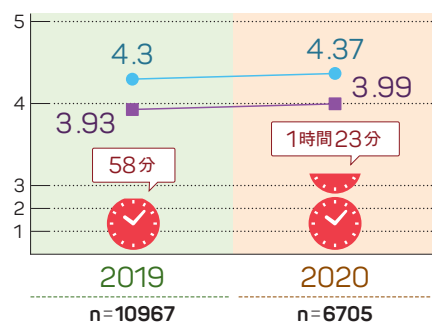
基幹科目



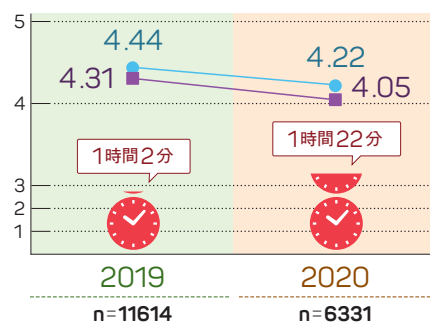
展開科目(文系)



展開科目(理系)



外国語

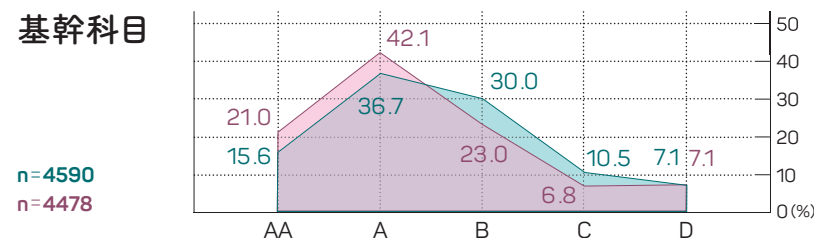


- [Q1] 授業における知識・技能の獲得具合 — 5を最高とする5段階評価
[Q2] 授業の総合的な評価 — 5を最高とする5段階評価
[Q3] 1授業あたり1週間の授業関連学習時間 — ●=1時間

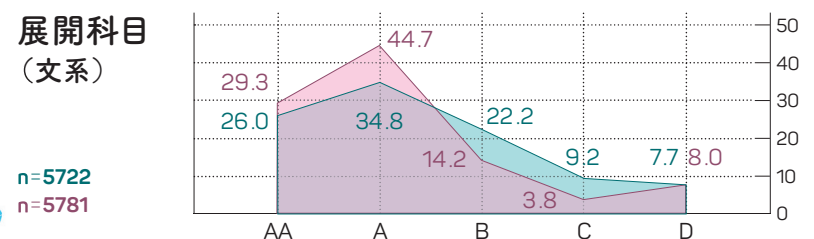
2019・20年度 1 学期の成績の比較

■ 2019 ■ 2020

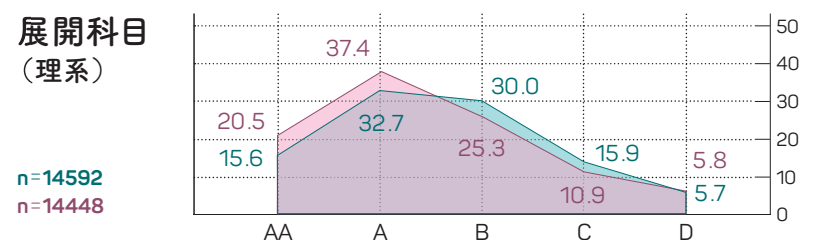
基幹科目



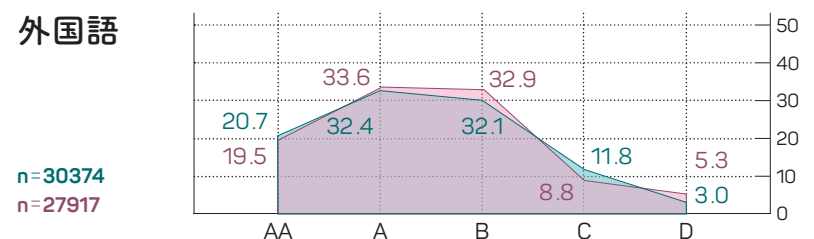
展開科目(文系)



展開科目(理系)



外国語



GPA 比較

AA	4 pt
A	3 pt
B	2 pt
C	1 pt
D	0 pt

	基幹科目	展開科目(文系)	展開科目(理系)	外国語
2019	2.43	2.62	2.37	2.56
2020	2.63	2.83	2.56	2.53
増減値	+0.20	+0.21	+0.19	-0.03



CIRと コラボレーション しませんか？

CIRでは全学的な教育に関する調査分析の他に学内各所の委員会や部局との連携・協力による改善支援を行っています。

これまでCIRが蓄積してきた様々な教育関連データを用い、教育改善に向けた課題抽出、解決のための情報分析をお手伝いします。

ご興味をお持ちの部局、解決したい課題をお持ちの方がおられればお気軽にお問い合わせください。

例えば、こんなことができます[これまでの実績]

➔ 国立大学法人評価(4年目終了時評価)

各部局における「現況調査表」作成に際し、第4回学修成果調査で収集した学生からの意見聴取等に関する基礎データを提供しました。

➔ 東北大学学務審議会/教育情報・評価改善委員会

CIRは、東北大学学務審議会及び教育情報・評価改善委員会からの依頼に基づき、各々年に二回発行されている報告書「全学教育科目成績分布図」と「学生による授業評価アンケート実施報告書」の冒頭において、各期の教育活動を振り返るため、毎回独自の視点を設定して様々な分析を実施し、その結果を報告しています。

CIRが実施する調査のご紹介

CIRでは、過去に実施した調査報告書を配付しております。

入手をご希望の方は下記のお問い合わせ先まで、ご連絡ください。

[お問い合わせ]教育評価分析センター →→→ cir@ihe.tohoku.ac.jp



2020年
1月
実施

東北大学教員の 教育活動に関する調査報告書

東北大学の教育改善を図る取組の一環として、2015年度の調査に続き今回は2回目の実施となりました。2022年に向けた新たな全学教育カリキュラム改革の実装段階に入るにあたって、政策的要請やカリキュラム改革にも資するものとなるよう、本学教員がいかなる認識や方法の下で教育活動を展開し、どのような課題を抱えているかをデータで明らかにすることを試みました。特に「単位の実質化」、「高年次教養教育」、「 Semester制・クォーター制」について詳細に報告しています。



[目次]

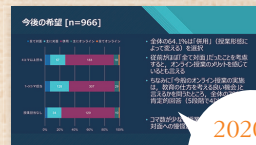
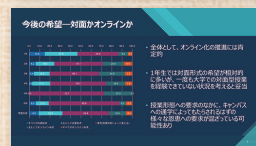
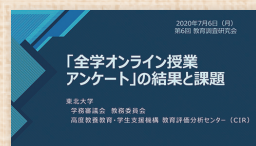
第1部 調査結果全体に関する分析

1. 調査概要と回答傾向
2. 単位の実質化に向けた諸課題
2019年度改定の関連文書を念頭に
3. 全学教育改革について
学期制と高年次教養教育

第2部 資料(部局別集計表、自由記述、調査票)

[既刊]

第1回東北大学教員の教育活動に関する調査報告書
速報版:2016年3月刊行
通常版:2016年11月刊行



2020年
6月
実施

東北大学における 「全学オンライン授業アンケート」の 結果と課題

(パワーポイント資料)

2020年度のコロナ感染拡大を機に開始された「オンライン授業」の実施状況、教育の充実度、課題等を明らかにするとともに、アフターコロナ時代の東北大学におけるオンライン教育の可能性を探ることを目的に本学の学部生・院生と教員を対象に行ったウェブアンケート。オンライン授業の実態、利点と課題、今後期待する授業形態について、定量的・定性的データで明らかにしています。

[目次]

1. 調査の概要
2. 学生調査
回答数と回答率/授業タイプ別平均履修コマ数(学部)/授業タイプ別平均授業内学習時間(学部)/授業タイプ別平均授業外学習時間(学部)/その他学修時間、会話時間/今後の希望—対面かオンラインか/その他の評価
3. 教員調査
教育状況1:担当コマ数による授業形態の違い/教育状況2:授業形態による違い/ストレス/今後の希望
4. 学生調査・教員調査の自由記述から
学生調査の自由記述から—頻出トピックの抽出を頼りに/教員調査の自由記述から—頻出トピックの抽出を頼りに/学生調査の自由記述から—授業の改善に向けて/教員調査の自由記述から—教育研究の改善に向けて
5. まとめ